

2020年3月期 第3四半期 機関投資家・アナリスト向け電話会議 質疑応答要旨

日時：2020年2月14日 17:00~17:30

回答者：経営企画ユニット長 西村 泰介

【全体及び第一生命の業績について】

- Q1: 連結純利益の進捗状況が通期予想に対して56%に留まっている中、修正利益では89%と高い進捗になっている。第4四半期のキャピタル損益や出再に係る費用等を見据え、どちらの利益が通期予想値に近づく見込みなのか教えて欲しい。
- A1: 再保険の規模等については検討中であるが、出再によりグループ修正利益の進捗が変化することは想定される。一方、純利益については出再の影響に加えて、第一フロンティア生命のMVA損益の影響で大きく変動する可能性があるので慎重に見極めていきたい。
- Q2: 第3四半期累計期間の新契約価値は、上期までの積み上がりと比較して順調なのか、あるいは売れている商品群が異なるため違う動きをしているのか等、コメントが欲しい。
- A2: 新契約価値について第3四半期累計期間では非計測であることから確定的なことは言えないが、足元の状況として大きく減速はしていないと考えている。
- Q3: 第一生命のキャピタル損益に関して、金融派生商品損益と為替差損益が悪化している要因について教えて欲しい。
- A3: 第一生命における金融派生商品損益について、第2四半期累計期間までは相場下落の影響によりヘッジポジションからの利益が出ていたが、第3四半期は円安、株高の相場環境となったため、その影響で減少している。為替差損益については、ヘッジコスト率は低下しているものの、ヘッジ外債の残高積み増しの影響がある。
- Q4: デリバティブが影響してJ-GAAPの利益にノイズが出やすくなっていると考えられる中、現状のグループ修正利益の考え方においてはMVA関連損益こそ修正されるものの、それ以外のノイズが修正されない。今後、株主還元の基準を見直す予定はあるか。
- A4: 株主還元は、現中期経営計画「CONNECT 2020」の3年間はグループ修正利益の40%を還元するとしており、現時点で変更の予定はない。次期中計における還元政策については今後検討していきたいと考えている。

Q5: 第4四半期の修正利益の下振れ要因として、既契約ブロックの出再によるリスク削減の影響が挙げられると思うが、修正利益への影響を見極めつつ出再の規模感を決定するという事は可能なのか教えて欲しい。

A5: 出再によるリスク削減については規模感等含め現在検討中のため、詳細は差し控えさせていただきます。

Q6: デリバティブ等を活用した金利リスク削減のポジションについて、2019年9月末から大きな変更はないか。

A6: ポジションに大きな変動はない。

【第一フロンティア生命の業績について】

Q7: MVA 関連損益について、リスクファクターとしてどの指標を重視すればよいのか教えて欲しい。

A7: MVA 損益が発生する外貨建保険契約については、米金利の低下による影響が最も大きく、次に豪金利となっている。

Q8: 2020年1月に入って米金利、豪金利ともに一段と水準が下がっているが、財務会計上の利益について下振れの可能性を示唆しているという理解でよいか。

A8: 金利水準により変動するため確定的なことは言えないが、足元の金利水準に照らして推定すると、MVA 損益としては今四半期の実績より、第2四半期累計期間の実績の方に近い着地になりうると見ている。

【ネオファースト生命の業績について】

Q9: 第3分野商品の保有契約の伸びを見ていくと、第一生命のそれと比較してもかなり伸びているが、その理由を教えて欲しい。また、第一生命とネオファースト生命で扱っている商品において収益性に差があるのであれば教えて欲しい。

A9: ネオファースト生命の保有契約年換算保険料が伸びている要因として、昨年度売っていた経営者保険を売り止めとしていた（補足：現在は販売再開しております。）状況下において、同社では戦略として保険ショップ等を通じた医療保険の拡販をしてきた。第一生命とネオファースト生命の新契約マージンについては商品が異なることもあり同等とは言えない。

【海外子会社の業績について】

Q10: TAL 社においてスーパーアニュエーションにかかる法改正の影響は一旦落ち着いたか。また2020年4月からのオプトインを踏まえた見通しについて教えて欲しい。

- A10: TAL の保険関係収支については、主に団体保険の支払が増加している状況である。2020年4月にはオプトインの対象が拡大されるが、中長期的な影響は今後も見極めていく必要がある。
- Q11: 米国においてインフルエンザが流行しており、歴史的な水準であると報道されているが、米国の保険事業において懸念すべき事項はあるか。
- A11: 米国のインフルエンザについては、2019年3月にプロテクトティブ社において死亡率の悪化が業績に影響したと説明しているが、その時と比較すると罹患者の年齢層に違いがある。2019年3月は高齢の罹患者が多かったが、現時点では、今回は相対的に若年層の罹患が多い傾向にあると認識している。こうしたことから2019年3月期と同様のインパクトがあるとは考えていないが、米国におけるインフルエンザ流行によるプロテクトティブ社の業績への影響については今後も注視していきたい。
- Q12: 米国のインフルエンザについて、2019年3月期の期初にプロテクトティブ社の通期予想を策定した際にはその影響を読みきれなかった結果、利益の進捗が悪かったと認識している。今後、その経験を考慮してプロテクトティブ社の事業計画を保守的に策定していくことは考えられるか。
- A12: 来年度のプロテクトティブ社の事業計画のうち、利益計画にインフルエンザの影響をどのように反映させるかという点だが、実際の死亡率が想定と異なることで利益の実績値がぶれることはあるとしても、懸念があるからといって死亡率を保守的に設定することはない。

(注) 上記内容については、理解しやすいように、部分的に加筆・修正しています。

【免責事項】

本資料の作成にあたり、第一生命ホールディングス株式会社（以下「当社」という。）は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に

関する記述には、これに限らず、「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現が含まれます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。